

コミュニケーション

communication

No.108

2024.10月号

帰ってきた
アフリカゾウの花子



Contents

- P2～3 園長あいさつ／こんにちは!あかちゃん／
移動動物／訃報／飼育動物数
- P4～5 【特集1】「おかえり花子」
アフリカゾウ繁殖プロジェクトが一区切り
- P6～7 【特集2】「世界○○の日」を通じて楽しく学ぼう!／
大森山動物園へのご支援をお願いします
- P8～9 飼育レポート／動物病院から
- P10～11 イベントレポート
- P12 飼育日誌／お客さまの声／かたばた通信



あきぎん 大モリンの森

ちょうどいいから
住みやすい! 秋田市
LIFE
市民と広げるまちへの暮らしと愛着

園長あいさつ

「動物とのつながり」 園長 小松 守

2024年、開園51年目の春はゾウ輸送の大仕事で始まりました。東北の3つの動物園(仙台、盛岡、秋田)がアフリカゾウ繁殖計画を話し合い、2018年に仙台・秋田間でメスの交換が行われましたが結実せず、秋田の「花子」、仙台の「リリー」はこの春、元の園に戻りました。

6月5日、花子が秋田に帰ると「花子さん、お帰り」と来園者は笑顔で出迎えてくれ、また地元小学生が「ゾウさん堆肥」を使って栽培したスダックスを刈り取ってプレゼントすると、花子はおいしそうに食べてくれました。ゾウ

と来園者、子どもたちとのつながりは、とても心温まるものでした。飼育員も同じです。飼育日誌には「花子・帰郷後〇日目」の特別タイトルが付され、飼育員と花子との会話、健康チェックである運動や睡眠の様子、食事メニューと食べ方などが克明につづられ、「花子」との心のつながりが感じられ、あたかも我が子の成長日記のようです。

こうした来園者や子どもたち、あるいは飼育員とゾウとの関わりを見て、人と動物の「つながり」を改めて考えさせられました。開園50周年で園がテーマとして掲げた「つながり、ともに未来へ」を思い出します。動物園の存在意義が問われる時代、日本人が抱く独特の動物観に思いを広げながら、市民、来園者と動物とのつながりを考えることは動物園づくりの大事な道標でもあり、大森山動物園がずっと掲げてきたテーマ「動物と語らう森」とも重なります。



花子の歓迎会

こんにちは！赤ちゃん

マーコール

2024年5月31日に2年ぶりに生まれました。10歳で最年長の「クルミ」に1頭、その娘である5歳の「ゆべし」に双子、同じ日に3頭の子どもが生まれました。2歳の「みたらし」にも6月12日に1頭生まれましたが、残念ながらこちらは初産ということもあり、翌日亡くなってしまいました。「クルミ」と「ゆべし」の子どもたちは3頭で仲良く走り回っています。

8ページの飼育レポートもあわせてご覧ください。



8月1日撮影

2024年1月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



5月31日撮影

ヨーロッパフラミンゴ

2024年7月16日に1羽ふ化しました。生まれて数日は巣の中で親から口移しで餌(フラミンゴミルク)をもらいますが、10日から2週間経つと巣から離れます。今では元気に歩き回ったり、親鳥のまねをしたり、元気にすくすく育っています。ヒナは、飼育員により「フランボワーズ(木イチゴ)」と名付けられました。

飼育動物数(6月末時点)

哺乳類 48種 340点	鳥類 26種 117点	爬虫類 12種 25点	両生類 3種 6点	魚類 3種 28点	無脊椎動物 1種 23点	合計 93種 539点
-----------------	----------------	----------------	--------------	--------------	-----------------	----------------

仲間入りした動物たち

よろしくね！

ニジキジ

15年ぶりに展示を再開しました。メスは他のキジの仲間と同様に地味な模様ですが、オスはメタリックな色合いのとてもキレイな外見です。ぜひ間近でご覧ください。



オス



メス(右)

アフリカゾウ(花子)



花子/メス

秋田市大森山動物園、仙台市八木山動物公園、盛岡市動物公園で2018年からアフリカゾウの繁殖プロジェクトを進めてきました。秋田と仙台の間でメスを入れ替えて6年経ちましたが、残念ながら2世の誕生には至りませんでした。6月上旬に「花子」は仙台から秋田に、「リリー」は秋田から仙台に、それぞれ元の動物園に戻りました。詳しくは4ページの特集をご覧ください。

大森山を後にした動物たち

元気でね！

アフリカゾウ(リリー)



リリー/メス



この他、シロフクロウ(メス)が旭川市旭山動物園へ移動しました。

訃報 忘れないよ...

カピバラ

2024年4月13日に亡くなりました。「ぐら」は2011年に当園で生まれました。双子の「ぐり」とともにたくさんの子宝に恵まれました。現在、飼育展示している4頭の群れのうち、マカロコとドリアはぐらの、グリーンピースと落花生はぐりの子どもです。



ぐら/メス

シンリンオオカミ

2024年7月23日に亡くなりました。2006年にカナダの動物園で生まれた「ジュディー」は2010年に来園後、オスの「シン」と仲良く暮らしました。2022年6月上旬に引退し、園内にある動物病院「森のびょういん」で余生を過ごしていました。晩年はかわいいおばあちゃんでした。



ジュディー/メス



コモンマーモセット

2024年7月28日に亡くなりました。「モモ」は2008年に甲府市遊亀公園附属動物園(山梨県)で生まれ、2011年に来園しました。オスの「イツキ」との間に40頭以上の子どもを出産し、当園の一大ファミリーを築きました。



モモ/メス

当園で久しぶりの誕生となったものの亡くなってしまった動物

5年ぶりにアムールトラ、10年ぶりにエリマキキツネザル、19年ぶりにカリフォルニアアシカが出生しましたが、残念ながら生まれてすぐに亡くなってしまいました。

この他、ホンダフクロウ、ブロンズトキ、ワオキツネザル、ニホンザル、イワシャコ、フンボルトペンギン、インドクジャク、アビシニアコロブス、モルモット、ヨツユビハリネズミ、コーンスネーク等が亡くなりました。

「おかえり花子」 アフリカゾウ繁殖プロジェクトが一区切り



東北の3つの動物園（秋田市大森山動物園、仙台市八木山動物公園、盛岡市動物公園）で飼育しているアフリカゾウの共同繁殖プロジェクトが始まったのは2017年のことでした。^{※1}今回、そのプロジェクトに大きな動きがありました。2018年に大森山と八木山の間で新たなオスとのペアリングを行うことで、環境変化による排卵誘発と繁殖をめざし、交換した花子とリリーでしたが^{※2}、2頭の排卵は止まったままで、また2021年3月に大森山で飼育していたオスのだいすけが死亡し^{※3}、当園での自然繁殖の可能性が無くなったため、それぞれ元の動物園に戻すことにしました。

今回の特集では、リリーが秋田に来てからの6年間を振り返り、移動に備えて大森山と八木山との間で取り組んだことや、帰ってきた花子の今後について紹介します。

園長補佐 三浦 匡哉

大森山でのリリーの6年間

飼育展示担当 副参事 小川 裕子

2018年にリリーが来園してから定期的に行っていた血中、糞中および尿中ホルモン検査では性周期の改善は見られず、北海道大学との共同研究で2種類のホルモン療法も試みましたが、いずれも性周期の正常化は認められませんでした。

2021年、だいすけの死後に行われた3園の会議で、リリーに自然繁殖の可能性が無くなったことや2頭がそれぞれの市民にとって特別な存在であるということから、翌年（2022年）に花子とリリーをそれぞれ元の園に戻すことが決まりました。

それを受けて2021年秋に鎮静剤の投与試験を行いました。ゾウを輸送箱に入れることはとても難しく、何か月もかけて輸送箱に慣らしします。最後はチルホールという道具でゾウの足を引いて輸送箱に入れますが、鎮静状態の方がより安全に作業を行えることから鎮静剤を使うことにしました。

リリーを八木山から搬出する際にも同じ薬で鎮静を行って

いたので、今回も同様の経過をたどるかどうかが、鎮静状態における飼育員の号令への反応などを確認しました。試験は無事に終了し、有益なデータも得られ安心しました。

しかし、移動する直前の2022年4月23日にリリーが倒れて起き上がれない状態になりました。^{※4}幸いリリーの体調は順調に回復しましたが、移動に耐えうる体力があるかの判断が困難でした。当園にはゾウを計量できる体重計がないため、痩せたか太ったかの判断は人により異なります。そこで、八木山の獣医師と共同で移動のための客観的な評価法を作成しました。この基準を満たしていれば移動可能と判断するものです。内容は体の筋肉や脂肪の付き方を複数方向から評価するボディコンディションスコア（BCS）やエサの採食量、糞の量や状態、日中の行動、夜間の睡眠時間等の項目から構成されています。



仙台から到着後、だいすけ(左)と過ごすリリー(2018年10月)



リリーのお別れ会を開催(2024年5月)

BCSに関わる体の筋肉については、ゾウ担当の飼育員が長時間の移動に耐えうる筋肉を鍛えるために、首から肩の筋肉トレーニングや長時間展示場を歩かせるために給餌方法を工夫するなど、チーム一丸となって取り組みました。また、便状や日中の行動に関しては、2022年の秋に^{せんつう}肛痛(腹痛)があり、便状回復まで時間を要しましたが、2023年春にはすっかり回復し、いつ移動しても大丈夫な状態になりました。

2024年3月下旬、輸送箱が届きました。リリーにとっては6年ぶりですが、ゾウは記憶力の良い動物なので、6年前の輸送箱に入った記憶が残っています。リリーが輸送箱に恐怖心を持っている可能性が高いことを考慮し、箱に慣らす期間には余裕を持ったスケジュールにしました。ゾウ担当の努力と

チームワークでスケジュール通りの成果が得られ、6月3日の移動当日の箱入れは時間通りに終了でき、とても感動しました。同日15時、リリーは予定通り無事に八木山に到着し、すぐに環境にも慣れ、元気に暮らしています。



順調に輸送箱へ入り、リリーが仙台へ出発!



バキバキ

帰ってきた花子

飼育展示担当主席主査 山上 昇

2024年6月5日、仙台にいた花子も無事に輸送箱に入り、八木山を予定通り11時頃に出発しました。秋田までの道中、最初は不安からか輸送箱の小窓から周囲を確認するかのよう^{よう}に鼻先を何度も出していました。おそらく6年前の移動経験がよみがえっているのだと思いました。その後、鼻先を出さなくなりちょっと心配しましたが、秋田県に入った途端鼻先を出し、元気な様子が確認できて安心しました。

同日15時過ぎ、無事に大森山に到着しました。緊張した様子ながら久しぶりの故郷の香りを楽しむかのように、鼻先を輸送箱の小窓から出し、周囲を確認していました。そして、「おかえり花子」と声をかけながら少しずつ輸送箱の扉を開けると、元気な様子^{ようす}の花子と対面することができました。花子も

やや緊張と興奮で落ち着かない様子も見られましたが、怪我もなく無事に住み慣れた我が家に入り、部屋中を動き回りながら徐々に落ち着きを取り戻し、エサを与えるとすぐに食べ始めました。

今後、花子は単独生活になるため、日中は給餌回数を増やすことで担当者が花子の行動をより細かに観察するほか、大きい古タイヤなどの遊具を設置して遊ばせたり、時には担当が筋力トレーニングや水遊び(水浴び)の相手になったりして、花子が安心して生活できるよう見守っています。また、夜間はビデオ録画して睡眠時間や行動を記録するなど1日を通して行動を観察し、花子が毎日元気に過ごせるようゾウ担当をはじめ飼育員皆で力を合わせケアしていきたいと考えています。



6年ぶりに大森山に帰ってきた花子



到着後エサをもらう花子



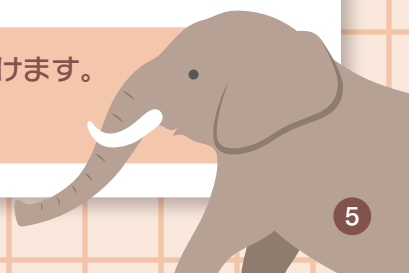
タイヤで遊ぶ花子(お腹の上に乘せるのがお気に入り)



食欲旺盛で好物の枝葉をモグモグ

さらに詳しく知りたいかたは、コミュニケーションのバックナンバーでご覧いただけます。

※＝発行号 ※1＝No.96、※2＝No.97、※3＝No.102、※4＝No.104



「世界〇〇の日」を通じて楽しく学ぼう！

動物の野生下における現状や保全について考えることを目的に制定されている「世界〇〇の日」。
大森山動物園でも、この日をきっかけにさらに動物のことを知ってもらおうとさまざまなイベントを開催しています。

今号では、直近に開催したイベントの一部を紹介します。

企画広報担当 保坂 茉莉奈

キリンの保全活動を行っているキリン保全財団(Giraffe Conservation Foundation)が制定。キリンは最も首が長い動物であることから、1年で最も昼が長い夏至の日が世界キリンの日とされています。

6月16日に「クイズキリン王」と題したイベントを開催しました。広い展示場を使い、キリンにまつわる〇×クイズに挑戦しながら、楽しく学ぶことができました。また、6月7日から23日まで、生態や現状などキリンのあれこれについて紹介する特別展示を行いました。



キリン王めざしてクイズに挑戦！



参加者の皆さんと記念に📷

6/21 世界キリンの日

2010年にロシアのサンクトペテルブルクで開催された国際会議「トラサミット」で制定。

7月1日から29日にかけて特別イベント「FSCマーク・RSPOマークを集めて木を増やそう」を開催しました。野生のトラがすみ森を守るために私たちができる身近な活動のひとつとして、WWF(世界自然保護基金)が環境に配慮して作られていることを認証した製品に付けられる「FSCマーク」あるいは「RSPOマーク」がついた商品を選んで購入するというものがあります。

今回はこのマークを活用し、トラの保全に意識を向けてもらう機会になるようイベントを企画しました。



責任ある森林管理のマーク



7/29 世界トラの日



木を模した台紙に日常生活で見つけたマークをベタベタ



多くのお客さまに参加いただき、目標の8本の木が完成！



世界トラの日にちなんだ特別解説も行いました



達成した木の本数に応じた8種類のデザインの記念缶バッジを販売しました♪

大森山動物園
へのご支援を
お願いします

昨今、燃料費やエサ代の高騰により動物園の運営費用が不足しています。

当園では、エサ代や施設整備費などに活用させていただくため、令和6年7月から各種寄附の受付を始めました。

動物たちの健康を守るため、あたたかいご支援をよろしくお願いします。





7/14 世界チンパンジーの日

野生チンパンジー研究の第一人者であるジェーン・グドール博士が、チンパンジーの生息地であるアフリカのゴンベ(現ゴンベ渓流国立公園)の地へ初めて足を踏み入れた日(1960年7月14日)を記念し、2018年に制定。

7月14日当日に特別どうぶつ解説を開催し、普段のどうぶつ解説では伝えきれなかったことや、最近の飼育エピソードなどをお話ししました。また、取りづらいところに置かれたリンゴをチンパンジーが器用に道具を使って取る姿もご覧いただき、身体能力の高さを目の前で観察しました。

飼育員による特別解説



見事リンゴゲット!



10/23 世界ユキヒョウの日

2013年にキルギス共和国の首都ビシュケクで「世界ユキヒョウ保護フォーラム」が開催されてから1年を迎えたことを受け、翌年2014年に制定。

同じくユキヒョウを飼育していて、当園と深いつながりのある「いしかわ動物園(石川県能美市)」と8月1日から12月1日までコラボイベントを実施しています。

①入園チケットの半券提示でポストカードプレゼント

お互いの入園チケットの半券を提示で「ヒカリ」と「ヒメル」のオリジナルポストカードをプレゼント(先着各100人限定)

②SNSでコラボ発信

6頭の似ているシーンや特徴など、ユキヒョウたちの魅力を公式SNSで定期的にお届け中!



初回投稿はそれぞれ飼育しているユキヒョウを紹介

④コラボ展示

当園といしかわ動物園のつながりについて紹介する展示をミルヴェ館でコラボ期間に合わせて開催。



共通で飼育している動物や交流のある動物を紹介
九谷焼上絵付け体験で作るマグカップも展示!

⑥記念日イベント

大森山では10月19日(土)・20日(日)に特別解説、いしかわでは10月26日(土)・27日(日)にお話し会を開催。

③コラボグッズを販売

今回のコラボ限定のグッズを8月1日から期間限定で販売しました。

- ▶カプセルトイ(①缶バッジ、②アクリルスタンド、③アクリルキーホルダー) ※①は大森山のみ、②③はいしかわのみ。
- ▶クリアファイル ※大森山のみ。
- ▶フォトセット ※デザインが異なるセットを両園で販売。



缶バッジ(第1弾)



フォトカードセット



クリアファイル

⑤絵付け体験イベント

ユキヒョウをモチーフにした絵付け体験を開催。大森山ではガラスの絵付け(10月5日開催)、いしかわでは、九谷焼上絵付け(8月24日～26日開催)を体験していただきました。

作品イメージ



このほか過去にはこちらの記念日もイベントを開催しています!

- 世界カワウソの日(5月の最終水曜)
- 国際レッサーパンダデー(9月の第3土曜)
- 国際テナガザルの日(10月24日) など

●動物サポーター制度(企業・団体向け)

動物の種類や施設ごとに5万円～20万円のご支援を受け付けています。期間は認定を受けた日から1年間。

動物サポーターの特典▶企業名などを記載した動物サポータープレートを対象動物舎などに掲示、支援動物との記念撮影・動物舎見学など

●物品寄附(Amazonほしい物リスト)

動物園がインターネット通販サイトAmazonの「ほしい物リスト」に必要なとする物品を登録し、その物品をみなさんから購入してもらおう寄付制度。

このほか、現金による寄附やふるさと納税による寄附も受け付けています。詳しくはホームページをご覧ください。

飼育レポート

B r e e d i n g r e p o r t

report.1

レッサーパンダ「ケンシンおたすけ隊」に感謝

飼育展示担当(動物専門員) 櫻庭 美千代

レッサーパンダのケンシン(オス)は、2022年11月頃から虫歯や歯肉炎の影響で主食の竹の葉を食べることが難しくなりました。そのため毎日竹の葉を1枚ずつちぎってハサミで小さくカットし、ミキサーで細かいペースト状にしたものにすりおろしリンゴをまぜて与えています。

この竹ペースト作りは非常に手間と時間がかかります。与えたいペーストは最低でも1日1束分程の葉です。日々作業の合間を縫って作っていますが、飼育員は他の仕事もあるため時間の確保が大変です。

そこで、2023年9月から来園者に竹の葉をちぎってもらいイベント「ケンシンおたすけ隊」を始めました。これは、動

物園には元気で健康な動物ばかりが暮らしているわけではなく、高齢になりエサを食べるのが大変で、実は裏では動物も飼育員も一生懸命頑張っていることを伝えることが目的です。また、動物のエサ作りの一部を来園者に手伝ってもらうという新しい形の命のイベントとして実施しました。

みんなで30分程竹の葉を夢中でちぎり、その後ケンシンが美味しそうにペーストを食べる様子を参加者が食い入るように見つめる姿は、飼育員にとって様々な思いや感じるものがあります。このイベントを通して「命とは何か」が伝われば幸いです。イベントは定期的開催しているので、ケンシンのために機会があればぜひ参加してみてください。



紙芝居でケンシンの現状を解説



ケンシンのために竹の葉ちぎり！



ケンシン

report.2

マーコールの母娘が偶然同じ日に出産

飼育展示担当 藪崎 雅紀

2024年5月31日、母のクルミが1頭、娘のゆべしが2頭の仔を出産しました。マーコールの繁殖期は秋頃で、出産は5～6月に集中するものですが、同じ日になるのは珍しいと思います。仔は出生後すぐに抗体を多く含む初乳を飲み、免疫を高める必要があります。幸い2頭とも過去に出産を経験し、授乳がとても上手でした。

しかし、授乳を確認した矢先、クルミの仔がゆべしに乳をねだり、心配したクルミが駆け寄りましたが、ゆべしに追い返されました。クルミはゆべしの母ですが、2頭は不仲のため協力して子育てする関係ではありません。ゆべしが交互に授乳する姿は確認できたものの、ゆべしに一任すると乳量不足

で仔が痩せる恐れがあるほか、クルミの乳が張り乳房炎になるリスクもあります。そこで、クルミの仔をゆべしから隔離しようと試みましたが、ゆべしが母であると勘違いしたのか、引き離すことができませんでした。

翌日以降、仔の状態を注意深く観察しました。我々の心配とは裏腹に、生後3日で岩山を軽々と駆け上がるほど身体能力が向上し、さらに喜ばしいことに、6月4日には再びクルミが自分の仔に授乳する姿を確認できました。現在、仔の体格はどんどん立派になり、乾草や飼料作物を好んで食べています。今後の3頭の成長が楽しみです。



マーコールの子どもとゆべし



授乳するゆべし



岩場を軽々登るなど日々成長中！

「大森山自然塾」で身近な生き物を知ろう

飼育展示担当(動物専門員) 宮原 星

私たちの身の周りには、普段は気が付かないだけで多くの生き物たちが暮らしています。私は小さい頃から生き物が大好きで、すぐそこに魅力的な生き物がたくさんいるのに、知らないなんてもったいないとよく思っていました。「大森山自然塾」はそんな思いから、小さな自然の面白さ、生き物を見つける楽しさを体験してもらおうと2023年4月に始めたイベントです。毎月1回、ウグイスやセミ、ドングリなど、その季節に応じたテーマを決めて、園内で観察したり、生態や形態などの解説をしたりしてきました。テーマにするのは誰しも一度は目にしたことのある生き物ですが、どれだけ近くにいる、知らないこと、気づいていないことがたくさんあり

ます。私自身も自然塾を通して多くのことを学ぶことができました。

また、身近な生き物を知ること、彼らのピンチに気づくことにも繋がります。その場所にどんな生き物が暮らしているか知らないことには、いなくなってしまうと気づくことができません。様々な環境問題が起きている中、地球を守ろうという規模が大きすぎて自分事としては感じられないかもしれませんが、まずはその第一歩として、自然塾での体験が楽しい学びとして、身の回りの自然に目を向けるきっかけになると嬉しいです。



8月は「夏休みスペシャル」と題して園内ピクニック広場で虫取りに挑戦しました



捕まえた虫をじっくり観察

動物病院から
from the animal hospital

動物園に異動して半年で感じたこと

飼育展示担当(獣医師) 主席主査 佐野 功一



私は4月の異動で市役所の他部署から大森山動物園に配属となり、半年が経ちましたが、飼育や診療業務に追われている毎日です。大森山動物園には90種類以上、500点以上の動物たちがいます。配属される前は漠然と動物たちの数を聞いていましたが、いざ配属されてみるとその数の多さに圧倒されています。

私の獣医師としての役割には、動物たちの体に寄生している寄生虫を取り除く「駆虫」があります。動物たちの健康や快適な生活のため、定期的に駆虫を行っています。例えば、寄生虫がおなかにいれば食欲不振や下痢などの消化器症状を起こしたり、皮膚に寄生していればかゆみや痛みを

引き起こすことがあります。動物に感染する寄生虫の中には人にも感染するものもあります。動物園は多くのかたが訪れる場所ですので、動物から人に感染する可能性も考えられます。私はふれあいコーナーでの飼育担当もしており、毎日「なかよしタイム」を実施して多くの方々がモルモットやウサギをなでている姿を見て、駆虫の大切さを日々感じています。

動物たちのためにも、動物園を訪れてくださる方々の安全のためにも駆虫は欠くことの出来ないものですので、安心して動物園を楽しんでいただくため、今後もしっかり実施していきたいです。



注射の準備



入院中のモルモットに水をあげている様子

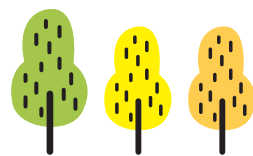


なかよしタイムでモルモットとふれあい



イベントレポート

E v e n t r e p o r t



通常開園スタート

(3月16日)



穂積市長のほか、ネーミングライツ・パートナーの秋田銀行・新谷頭取(現会長)にご出席いただき開園セレモニーを行いました。

また、王者の森の銘板とアートパネルを寄贈いただいた北日本通商株式会社に感謝状を贈呈しました。



開園セレモニー



感謝状贈呈式

飼育の日イベント

(4月21日)



4月19日の飼育の日に合わせ、普段は見ることのできない動物の健康チェックや、大小23種類の動物のウンチを解説付きで展示した「大ウンチ展」などの特別イベントを開催しました。



レッサーパンダの体重測定



見た目や特徴が異なるウンチにびっくり

春の動物ふれあいフェスティバル

(6月5日)

動物たちが園路を行進する「どうぶつパレード」を開催し、パレード終了後は動物たちとの記念撮影を楽しみました。その他、ツキノワグマやキリンの展示場を見学する「ひみつの探検ツアー」を行い、普段は入ることができないバックヤードに来園者を案内しました。

キリンの展示場へご案内



動物たちがもっと身近に！



新屋図書館コラボ企画

出張おはなし会&動物園ミニツアー

(6月15日)

ボランティアグループ「おはなしのしずく」によるおはなし会とおはなしに登場した動物に会いに行くミニツアーを開催。ツアーでは、ライオンの毛皮やヘビに触ったり、解説付きでゾウやキリンを観察したりして楽しみながら動物のことを学びました。



動物が登場するおはなしに興味津々



おはなしに登場した動物に会いに行こう！



本物のライオンの毛皮にタッチ

飼料作物スダックスの共同栽培

(5月10日～7月16日)

今年も浜田小学校と栗田支援学校の3年生15名が参加し、ゾウさん堆肥を使ったスダックスの栽培・収穫を5月から7月にかけて行いました。

収穫後、運搬用の一輪車いっぱいのスダックスをゾウ舎へ運び、アフリカゾウの花子にプレゼント。頑張って育てたスダックスをおいしそうに食べる様子を見て子どもたちは満面の笑みを浮かべていました。



一輪車いっぱいに収穫！



スダックスを花子にプレゼント

3 園館連携事業による出前授業

(7月11日)

鶴岡市立湯野浜小学校で、鶴岡市立加茂水族館、男鹿水族館GAOとともに出前授業を実施しました。当園からはアカコンゴウインコのメレブをはじめ、モルモットやジャンボウサギなどが出張し、その生態を間近で見学してもらいました。

※3園館連携事業＝東北の日本海に面した地域にある動物展示施設が連携し、各園館の利用促進と地域活性化のためにイベント等を相互に協力して取り組むこととしています。



モルモットとふれあい



獣医のお仕事・吹き矢を体験

第47回 親と子のふれあい写生大会

(7月13日～8月4日)

参加希望者に画用紙を配布して、園内または自宅で作品を制作してもらいました。提出された263点から、秋田市造形教育研究会による審査で41点が入賞し、上位入賞者には9月1日の表彰式で賞状と副賞を贈呈しました。秋田市長賞など上位3賞へ贈呈されたオモリントロフィーは、新屋ガラス工房が制作しました。



秋田市長賞 秋田市立八橋小学校5年
下間 穂孝「夕日ながめてボンタ」



秋田市議会議長賞
秋田市立土崎中学校1年
鈴木 結翔
「僕と以心伝心」



秋田市教育長賞
秋田大学教育文化学部
附属中学校1年
佐藤 心菜「笑門来福」



第50回 サマースクール

(7月24日、25日)



1日目は小学校3年生以下、2日目は小学校4年生以上の計39名が参加。午前は飼育体験などを通じて、動物の体の特徴や飼育作業の大切さを学びました。また、午後からはグループワークを行い、動物園の新たなイベントについてみんなでアイデアを出し合いました。



カピバラにエサをあげました



キリンのお部屋をキレイに掃除

大森山ナイトキャンプ

(7月26日、27日)



王者の森周辺の園路にテントを張り、夕食後は園内ガイドツアーやスイカ割り、キャンドル作りなどを体験しました。普段とは違った様子の園内で、皆さんキャンプ気分を満喫していました。



園路にテントを張ってキャンプスタート



スイカ割り、見事ヒット!

夜の動物園

(8月10日～15日 ※13日を除く)

恒例の「スイカタイム」など、夏を感じるイベントを行いました。台風の影響も心配されましたが、期間を通して1万3千人を超えるお客さまにご来園いただきました。



カピバラのスイカタイム



活発に動いていたトラ

今後のイベント(予定)

- 12月1日(日)
「さよなら感謝祭」 ※通常開園最終日
- 2025年1月4日(土)～
2月24日(月)の土日祝日
「雪の動物園」

飼育日誌



(令和6年1月1日～6月30日)

1/1		16時頃震度3の地震あり。動物、施設に異常なし。
1/4	フンボルトペンギン	3ペア各ペア1個産卵。左緑黄♂×右赤♀ペア擬卵に変更。
1/5	マーコール	繁殖行動確認。
1/6	ボリビアリスザル	ゲン♂ 群れから追い回される。
	ブレーリードッグ	発情、2頭と群れ分ける。
1/7	レッサーパンダ	ひなた・円実同居(10回目)
1/10	ニシアメリカオオコノハズク	新しく足輪の装着、嘴の調整、爪切り実施。
1/17	アムールトラ	シュウ♂・カサンドラ♀初同居
1/19	アムールトラ	同居 複数回の交尾を確認。
	ユキヒョウ	同居 複数回の交尾を確認。
1/23	スバルバルライチョウ	爪切り。
1/29	フタコブラクダ	幸♀ 抗生剤内服、左下顎レントゲン撮影(金属片なし)
1/30	ブレーリードッグ	ナイト♂ 恋鳴きしていた。
2/4	ニホンイヌワシ	西目♀ 1卵目産卵。
2/9	コーンスネーク	レントゲン撮影(腫瘍が大きくなっている他、骨の溶解確認)
2/12	ツキノワグマ	ルビー♀ 冬ごもり終了。
2/16	キリン	リンリン♀ 採血を実施したが白血球(好酸球)の上昇を確認。
2/17	フンボルトペンギン	右緑赤♀、右赤黄黄♂ つがい外交尾確認。
2/19	アフリカゾウ	後肢にアンクレット装着。
2/21	シマフクロウ	朝5時台に数回鳴き交わし確認。
2/23	ユキヒョウ	昨日に続き同居、特にリヒト♂の反応が薄く予定を早め終了した。
2/26	シマフクロウ	雌雄 片方が近づいても逃げない状態確認。
2/28		チンパンジーモート清掃(全体作業)。
3/3	ライオン	トモ♀ 健康診断(体重測定・採血・爪切り等)。
3/5	ニホンイヌワシ	西目♀ 抱卵放棄と判断。抱卵は紫雲♂。
3/8	ニホンイヌワシ	たつこ♀と千秋♂の鳴き交わしと思われる声を確認。
	シマフクロウ	昨夜ココロ♂がアオハ♀の背に乗る行動を確認。完全に受け入れているわけではない。
3/10	シマフクロウ	アオハ♀ 巣箱内で産座を作る動作を確認する。
3/17	レッサーパンダ	ひなた♂円実♀恋鳴きあり。
	アムールトラ	カサンドラ♀ 乳頭1カ所確認。腹部もやや膨らんできているように見える。
3/19	アフリカタテガミヤマアラシ	交尾確認。
3/20	ニホンイヌワシ	西目♀ 卵回収(検卵後日)。
3/21	カビバラ	くら♀ 右肘に鶏卵大腫脹あり。
	トナカイ	雨壇♀ 右落角。
3/26	シンリンオオカミ	ジュディー♀ 麻酔下検査。
	インドホシガメ	産卵1個あり。個体不明。
3/27	アフリカゾウ	採血・採尿・採糞。ゾウ輸送箱到着→ゾウ舎指定場所への設置。
3/29	ユキヒョウ	産箱準備。

3/30	ブレーリードッグ	ボン♀ シュートに足が絡まり宙づりになった。
4/4	アムールトラ	カサンドラ♀ 産箱に敷き藁投入。夜間も寝室に収容。
4/6	シンリンオオカミ	ジュディー♀ 起立困難となったためマット等設置。
4/8		令和6年度 新体制スタート。
4/11	フラミンゴ	本日から終日放飼。
4/13	ユキヒョウ	リヒト♂ 採血成功。
4/13	ユキヒョウ	ヒカリ フェンス外まで尾を引き出すトレーニング成功。ユキヒョウ産箱の床材整備。
4/17	ルリコンゴウインコ	テリー♂ 呼吸音の異常確認(暖房対応)。
4/22	アムールトラ	カサンドラ♀ 産室隔離。
4/23	キリン	ケイタ♂ 乳歯(臼歯)脱落(2本目)。
4/25	レッサーパンダ	繁殖期終了。同居はこのまま継続。
5/1	ラマ	モス♀ タ方キリン舎移動練習。サル舎前まで移動可能となる。
5/5	アムールトラ	カサンドラ♀ 昨夜、定期的に呼吸も速く興奮状態となる。
5/7	アカカンガルー	繁殖のためスミス♂を♀舎へ移動。高齢個体のサキコ♀を♀舎の予備室へ移動。
5/9	アフリカゾウ	リリー♀ 横臥睡眠なし。箱入れトレーニングは両前肢が完全に中に入る。
5/12	アカカンガルー	スミス♂ カスベ♀との交尾確認。
5/13	ユキヒョウ	アサヒ♀ 本日より展示開始。収容はできず。
5/17	マーコール	ゆべし♀ 腹が膨らんできている気がする。
5/18	アフリカゾウ	リリー♀ 輸送に向け生食筋注。指示にしっかり従っていた。
	アムールトラ	カサンドラ♀ 本日より展示再開。
5/20	ヒツジ	コットン♀の毛刈り。
	アフリカゾウ	リリー♀ 輸送リハーサル。
5/23	チンパンジー	外展示場のナッツ割りの石に穴を開けハチミツを入れた。
5/25	アビシニアコロブス	レイア♀ 出産。授乳確認。落ち着いている。
5/28	アビシニアコロブス	レイア♀ 死亡した仔を離さないため、諦めるまで抱かせる方針。
5/29		高病原性鳥インフルエンザ警戒期間解除。
5/30	アビシニアコロブス	レイア♀ 27日に死亡した仔を回収。通常展示に切り替える。
6/1	エリマキキツネザル	カイン♂ パンテー♀交換 ジェンカ♀ 出産するが仔は数時間後に死亡。
6/5	アフリカゾウ	花子 搬入作業。夜間観察。
6/8	キリン	ケイタ♂ 初採血。
6/11	アフリカゾウ	室内に遊具(大きい古タイヤ)入れる。
	マーコール	仔雑草採食。
6/12	ヨーロッパフラミンゴ	3ペア営巣開始。
6/13	カナダヤマアラシ	暑さ対策で2頭を動物病院へ移動。
	カリフォルニアアシカ	アイラ♀ 朝から高い声を断続的に発していた。20時22分出産確認。
6/14	ゼニタナゴ	ひょうたん橋水槽の二枚貝から4尾浮出。
6/15	フクロウ	タケコ♀ 暑さの影響大きく病院収容。
6/17	カリフォルニアアシカ	13日出生後死亡した仔の回収に成功する。
	ラマ	モス♀ キリン舎パドック・サブパドックへ入室。フェンス越しにヒロ♂と見合い。
6/18	ヨーロッパフラミンゴ	1ペア産卵。
	ニホンカナヘビ	♀ 腹部膨らみあり。産卵間近。
6/22	ライオン	ロアー♂ 麻酔下検査。

お客さまの声

- 3/25 仕事で秋田にきましたが、半日のんびりできました。ありがとうございます。
- 5/15 アシカのトレーニングが最高です。飼育員さんとの1日1日の積み重ねからなる信頼感は何度見ても感動します。
- 6/29 2年連続で年間パスポートを購入しました。何度来ても楽しませてもらってます! 動物大好きなので気軽に来れて最高です! また来ます!
- 6/29 王者の森にて、トラの成長写真が展示されていたが、あのようなコメント付き写真集は飼育員さんにもスポットライトがあたり、日々世話をしてくださる感謝も感じられとてもよいと思った。コメント付き写真集の販売があったらおもしろいと感じた。
- 7/25 飼育体験サマースクールを利用しました。案内して下さる男性の方をはじめ、皆さん心遣いがすばらしくびっくりしました。「雨で服が濡れていたら動物園のTシャツを用意しています!」「具合悪ければ遠慮なくいつでも言ってね」など、こまめに声をかけていただき、子どもたちも心強かったと思います。お忙しい中、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。
- 7/31 2年前まで秋田市民でした。年間パスポートでたくさん遊びに来させてもらっていました。のんびり、ゆっくりできるZOOで今でも大好きです! また帰省時に寄りたいです。

かたばた通信

今年4月に企画広報担当に異動してきました。動物の写真を撮ることが好きで、これまでも当園に足を運んでいましたが、スタッフとして毎日動物たちと向き合うようになり、日々違った姿・行動を見せてくれることに気が付きました。また動物だけでなく、飼育員、ボランティア、そしてご来園くださるお客さまなど、多くの方々の努力とご支援により魅力ある動物園が形作られているのだということを実感しています。(廣嶋)



発行/秋田市大森山動物園

〒010-1654 秋田市浜田字湯端154番地 TEL 018-828-5508 FAX 018-828-5509
E-mail ro-inzo@city.akita.lg.jp デザイン・印刷/秋田活版印刷株式会社

●動物取扱業者 秋田市長 穂積 志 ●事業所及び所在地 秋田市大森山動物園 秋田市浜田字湯端154番地
●登録に係る動物取扱業の種別/販売:動-19-52 貸出し:動-19-53 展示:動-19-54
●登録の年月日/2007年6月1日 ●有効期間の末日/2027年7月31日 ●動物取扱責任者/高橋 広志、山上 昇

大森山動物園

検索

<https://www.city.akita.lg.jp/zoo/index.html>